学校だより

第174号
神戸川小学校
神戸川興学会
R８・10・９

聴く＋訊く　のコミュニケーション

校長　樋野　育司

「聞く」と「聴く」。どちらも「きく」ですが…「聞く」は、単純に聞いている状態を表すのに対し、「聴く」は、相手の話をよく聴き理解しようとする意味があり、耳を傾けて聴き込む状態だとされています。

私たちの教育の現場では、「聞く」よりも「聴く」を心掛けようということがよく言われます。子どもたちや地域・保護者の方に対して、また、教職員間であっても「聴く」ことにより、相手の立場や心情の理解に努めようということです。

私が数年前に受けた、人材育成に関する研修では、「聞く」と「聴く」に加え、第３の「きく」に言及されました。それが「訊く」でした。以下、その話の趣旨です。

「訊く」には、相手の考えや意思を引き出すという意味がある。児童や生徒が、あるいは職場の後輩が課題に直面し、悩んでいるときがある。その悲しみ・不安や困り感を「聴く」ことにより共感的に理解することは、まずもって大切である。しかし、そこからの解決や前進に導いてこそ「育成」である。ただし、「こうしなさい」、「こうしてみたら」と簡単に解決の糸口を与えてはいけない。それは、結局は指示的であり、やらせである。「どうしたいのか」、「どうなってほしいのか」、そして、「そのためにはどんなことを行う必要があるのか」、会話の中で丹念に訊き、適宜助言しながら相手の意思を引き出していくのが「訊く」である。

この講義を受けたとき、わが身を振り返りました。先を急ぎがちで、相談を受けてもすぐに「ああしたら」、「こうしたら」と、自分の考えを主張しがちだった自分を反省しました。

個人的な印象ですが、「聴く」には広さと深さを感じます。自分が本当に困っているとき、その気持ちをしっかり受け止め、共感してもらえたら、大きな安心感が生まれることでしょう。

一方で、「訊く」には積極性と強さを感じます。相談する中で、おぼろげながらも次のゴールや道筋が見えてきたら、前進する勇気やエネルギーが生まれることでしょう。

「聴く」を基盤としながら、そこに「訊く」をプラスしていくコミュニケーション。特に「次世代を担う世代を育成する視点」に立ったときに大切にしていかなければと考えています。

みんなで育てる子どもの健康

ＰＴＡ会長　川本　晃平

「子どもには、心も身体も元気に成長してほしい。」これは、保護者の皆様に共通する願いではないでしょうか。その願いを支える土台となるのが「健康」です。

子どもたちは、遊びの中で走る、跳ぶ、投げるなど、さまざまな動きを経験しながら身体を発達させていきます。健康づくりのためには、スポーツに取り組むことだけが重要ではなく、友達との外遊びや家族での散歩など、日常の中で身体を動かすことも、健やかな成長につながる大切な時間です。子どもの健康は、特別な取り組みによって育まれるものではなく、「よく食べ、よく眠り、よく動き、よく笑う」という日々の積み重ねによって支えられています。忙しい毎日の中でも、朝食をしっかり食べること、家族で食卓を囲むこと、十分な睡眠をとることなど、何気ない一つひとつの習慣が子どもたちの心と身体を育みます。

また、子どもの健康は、家庭だけでも学校だけでも育むことはできません。家庭での生活習慣、学校での学び、地域の温かい見守りなど、多くの人との関わりの中で育まれていきます。ＰＴＡも学校や地域の皆様と力を合わせ、子どもたちが笑顔で安心して過ごせる環境づくりに努めてまいります。

未来を担う子どもたちの健やかな成長のために、一人ひとりができることを少しずつ積み重ねながら、みんなで神戸川小の子どもたちの健康を育てていきましょう。

ごあいさつ

興学会会長　林　伸

今年度、神戸川興学会会長に選任されました林です。平素から、校区内の皆様方には興学会の活動に対しまして格別の御理解と御支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

興学会は、神戸川小学校校区の教育の振興を図ることを目的に、神門・古志地区の皆様を会員として昭和四十四年に組織されたものであります。その当時私は神門小学校と古志小学校の統合により開校した神戸川小学校の六年生で、当然この組織の存在を知る由もありませんでしたが、大人になってから、当時も地域に支えられて学校生活を送っていたということを認識したところです。

興学会では、今年度も各町内から選出された評議員の皆様で組織する評議員会で予算規模約二百七十万円の令和八年度予算案の承認をいただき、皆様からいただいた会費をもって、神戸川小学校、神門幼稚園及び古志幼稚園の教育環境、教育施設設備の充実を図っているところであります。

神戸川小学校は今年度児童数が六百八十名余に増加し、子どもたちが安心して学校生活を送ることができる環境を一層充実させていく必要があります。そのためには、地域で学校とこれからの時代を担っていく子どもたちを支えていくことが肝要と考えます。

校区内の皆様におかれましては、興学会の活動に対しまして今後とも一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。



一年生

せんせいとなかよくなれたよ
さぬき　まほ

せいかつかのべんきょうで、よしだせんせいにいんたびゅうをしました。さいしょはきんちょうしたけどたのしかったです。あくしゅしてもらってうれしかったです。またあえるといいな。

はろういんぐりっしゅ
はしだ　ゆい

はじめてのはろういんぐりっしゅは、たのしかったけどどきどきしました。まえにでて、みんなのまえであいさつ、なまえ、ねんれいをすらすらいうことができて、うれしかったです。

みずあそび
ひるき　ひいな

きょう、みずあそびをしました。みずのかけあいっこをしました。あきよ うきにみずをいれてあそんだことがたのしかったです。みずがつめたくてきもちよかったです。

えきたいねんどでえをかいたよ
いとう　ことね

ずこうで「さわってまぜてきもちいい」のがくしゅうをしました。わたしは、きのこのえをかきました。あおとみどりのえのぐをねんどにまぜてかきました。ねんどがきもちよかったです。

二年生

学校たんけんをしたよ
有馬　りん

一年生といっしょに学校たんけんをしました。一年生と仲良くできました。とても楽しそうでうれしかったです。わたしもすごく楽しかったです。一年生とこれからもっとあそびたいです。

ボールはこびおにをしたよ
成相　明ね

体いくの時間にボールはこびおにをしました。さいしょはまもりがうまくできなかったけれど、友だちがしていたわざをつかったらうまくなりました。もっと上手になりたいと思いました。

ミニうんどう会をしたよ
角田　ゆずき

親子活どうでミニうんどう会をしました。二年三組は、ダンシング玉入れで一位になりました。友だちのおとうさんおかあさんとなかよくなれました。かてたしあいもあってうれしかったです。

けのびができたよ
竹下　うい

プールでけのびをするのがむずかしかったです。でも先生に教えてもらってれんしゅうしたらけのびができるようになりました。三年生のプールでもがんばりたいです。

三年生

毛筆の学習
平田　萌笑

書写では、三年生から毛筆をしています。左右のはらいの筆使いの練習で「大」を書きました。筆につけるぼくじゅうの量をかげんするのがむずかしくて、つけすぎたり少なすぎたりしてたいへんでした。何回も練習するうちに上手に書けるようになって、うれしかったです。もっと上手に書けるようにがんばりたいです。

外国語の学習
小林　茉菜

私は、四月から七月をふりかえって、外国語の学習をがんばりました。最初は、あまり英語が言えなかったけど、先生のあとに続けて言ったり、クラスのみんなといっしょに、楽しく言ったりして練習をしたので、今では、すらすら言えるようになりました。これからも、もっと練習して、英語を言うのをがんばりたいです。

初めてのリコーダー
増崎　史菜

三年生になって、リコーダーの学習が始まりました。わたしは、音楽が苦手なのでうまくいくかとても不安でした。でも、今は楽しくなってきています。リコーダーの持ち方やタンギングに気を付けながら、もっと練習して上手になりたいです。苦手なことも、楽しくなるんだなと発見することができました。

四年生

「トキ」のお話を聞いて
曽田　美月

トキの羽が黒くなるのは、巣作りや子育ての合図だとしりました。トキは日本で絶滅するところだったけど中国の漢中市で見つかってよかったなと思いました。おどろいたのは、トキのパートナーが見つかったら、木を渡すことが分かりました。すごかったです。

「外来種」について学習して
岸　幸奈

しんりゃく外来種は、増えるのが早く強いため、外来種の中でも生態系や人間生活に大きなえいきょうを与えることが分かりました。日本のタンポポにている外来種があり、最近はセイヨウタンポポが一番多いことを知ることができてよかったです。

じょう水場・じょう化センター見学

吉川　詩織

じょう水場とじょう化センターに行って、どちらも水をきれいにするのは同じだけど、よごれた水をきれいにして自然に返すのと、みんなが使うためにきれいにする、という役わりがあることを知りました。水をむだにしないのがすてきだな、と思いました。

ごみ処理場見学に行って

森　礁太郎

クリーンプラザの見学では、缶をプレスして処理しているところにおどろきました。なぜならあんな方法でプレスすると思わなかったからです。

なるほどと思ったことは、缶をプレスして再利用することです。プレスしてつぶしたら、粉々にして埋めると考えていたので、勉強になりました。

五年生

江津研修

佐々木　翔和

江津研修では、みんなで協力してがんばりました。冒険の森はすごく疲れたけど、みんなでゴールできて嬉しかったです。火起こし体験ではなかなか火がつかなかったけど、二回連続でつけられたので嬉しかったです。スタンツでは、言い合いもあったけど、本番は笑顔で楽しくできました。

ほかほか交流

武田　乃杏

六月三十日に、神門幼稚園へ行きました。楽しくできたことはだるまさんがころんだです。みんなルールを守って楽しそうにあそんでいたのでうまくいったと思います。みんなしんけんに話を聞いてくれてうれしかったです。十一月に行く二回目の交流では、みんなと仲が深まるようにしたいし、もっといっぱいしゃべりたいです。

江津研修

青木　佑磨

火起こし体験で体力が限界になったこともあるけど、がんばって火をつけることができました。友達ががんばっていた姿を見て、僕も手伝って火を起こすことができたことに達成感を感じました。やぐら作りでも班のみんなと協力して雨や暑さにも負けないでやぐらを作れてうれしかったです。

六年生

プール掃除

加藤　大煌

プール掃除がありました。プールの中は汚れていて、虫もいたので最初は嫌だなと思いました。でも、みんなも同じ思いだろうから、最後まであきらめずにやる、という気持ちをもってがんばりました。六年生みんなの力で掃除して、最後はきれいになって授業が楽しみになりました。自然の光の中で、みんなが楽しく水泳ができたらいいなと思いました。

一年生を迎える会

佐藤　悠光

一年生を迎える会にクイズ係に立候補しました。主役の一年生にもわかり、在校生には少し難しいクイズをメンバーで決めました。役割を分担して、工夫したから一～六年生に楽しんでもらえる会にすることができたと思いました。今回、人前に立ってみて、自信になりました。今後もこのような力をどんどん育てていきたいと思います。

陸上大会

小田　琉華

五月に陸上大会がありました。私は六〇〇mとリレーに出場しました。練習の時にはバトンパスがうまくいかなかったり、なかなかタイムが縮まなかったりと不安はありましたが、六〇〇mでは二分を切ることができ、約十秒もタイムを縮めることに成功しました。最後ペースを上げていたら順位が上がったかもと思いますが、いい思い出になりました。



なかよし学級

江津研修

松田　叶

江津研修がありました。とても楽しかったです。宿泊棟では、他の学級の人とも一緒にねました。食事もみんなで一緒にしました。

二日間で一番心に残っている活動は、冒険の森です。大変だったけど、みんなで声をかけ合いながらがんばりました。きゅうけい場所でもらったジュースがとてもおいしかったです。

キャンドルの集いは、ろうそくの灯がとてもきれいでした。

家に帰ったときは、くたくたでした。でも、ふだんできないことがたくさんできてよかったです。

修学旅行

本間　結翔

修学旅行で、スチール工場に行きました。工場の中はすごく熱かったです。遠くから赤いかたまりが、ベルトコンベアにのって近づいてきました。遠くのときも熱かったけど、近くに来るともっと熱かったです。目の前を通り過ぎると熱くなくなりました。鉄を冷やすとき、水の中に入ると、「どーん。」と、爆音が鳴りました。地面がゆれました。思い出にのこる工場見学になりました。

修学旅行はずっと雨でした。いい天気になってほしかったです。お土産のもみじまんじゅうが、とてもおいしかったです。

自らの人生を舵取りできる子

研究主任　多久和　雅俊

社会の変化が目まぐるしい現代において、子どもたちが将来、自分らしい未来を切り拓き、幸せな未来を歩んでいくために必要な力は何でしょうか。私はその力こそが「自らの人生を舵取りする力」だと考えます。

本校では今年度、子どもたちが「自ら問いを立て、学びを調整する力」の育成を目指し、校内研究に取り組んでいます。大切にしているのは、与えられた課題をただこなすのではなく、「今の自分には何が必要か」を捉え、自分で計画・実行・修正をくり返す姿勢です。テストや課題の失敗も単なるミスで終わらせず、「なぜこうなったのか」「次ミスをしないためにどう工夫するか」を自ら気づき、改善方法を分析し、乗り越えるプロセスを重視しています。

学びの主役は子どもです。大人が先回りしてレールを敷いて、「こうするんだよ」と手を引いてばかりでは、自分で選択し、判断する力は養われません。時には敢えてレールを外し、「どうすれば解決できそう?」「どんな方法が使えそうかな?」と問いかけ、自らの力で解決の方法を考える余白も大切です。

思い通りにいかない場面もあると思います。しかし、自分で判断し、自分の手で舵を切り直した経験は、ゆるぎない自信につながります。子どもたちが自信をもって自らの人生の舵を握れるように、子どもたちの挑戦を支えていきたいと思います。

小さいSOSが

生徒指導主任　板倉　直哉

朝、子どもたちとあいさつを交わしていると「今日は表情が暗いな…」というような、ちょっとした違和感を覚える時があります。気になって話を聞いてみると、友達とのことや勉強のこと、おうちでのこと等子どもたちはたくさんの悩みを抱えていることを痛感します。

一方で、スマホ等のメディアの発達により子どもの困り感が見えにくくなってきている現状もあります。大人に相談してくれた時には、既に抱えきれないほど大きな問題になっていることも少なくありません。

そんな中、生徒指導として大切にしていることの一つは、小さなSOSを見逃さないことです。

子どもたちは、日々の悩みについてSOSを出しています。大人にとっては違和感を覚える程度の些細な変化かもしれません。しかし、子どもにとっては精一杯のSOSでもあります。「何かあった?」と聞いても「なんでもない」とぶっきらぼうな返事が返ってくることもありますが、声をかけてもらえたことに安心している子どもいます。

そんな小さなSOSは、学校だけでは気づかないこともあります。保護者の皆様や地域の皆様と共有・協力していくことで小さなSOSも見逃さない【チーム神戸川小学校】の生徒指導が実現できると考えております。今後ともよろしくお願いします。

おめでとう　出雲市小学校陸上競技大会

【6年生参加】

男子走り幅跳び	3位	千原　蒼太
女子学級対抗4×100mR	6位	海塚、増田、川角、三原
男子学級対抗4×100mR	2位	千原、寺本、大西、勝部
男子学級対抗4×100mR	8位	坂本、山本、本田、藤本
女子100m	4位	和田　彩也紗
男子100m	4位	勝部　陽翔
	6位	寺本　柊矢
女子600m	4位	小田　琉華
男子1000m	6位	大西　快翔
	7位	梶谷　拓翔

神戸川小スタッフ紹介

よろしくお願いします

校長	樋野　育司
教頭	馬庭　利幸
主幹教諭	勝部　恵美
1年1組	馬庭　ちとせ
1年2組	大野　未来
1年3組	石飛　真梨子
1年4組	森山　英子
2年1組	村上　哲也
2年2組	大森　柊芽
2年3組	大田　真澄
2年4組	松尾　加奈
3年1組	槇野　裕子
3年2組	三代　路子
3年3組	渋谷　綾子
4年1組	飯塚　守
4年2組	江角　麗南
4年3組	矢野　晴菜
4年4組	山﨑　優太
5年1組	古賀　芙紀子
5年2組	木戸　政美
5年3組	板倉　直哉
6年1組	竹内　良江
6年2組	広渡　良
6年3組	多久和　雅俊
ひまわり1組	福田　ゆかり
ひまわり2組	森山　茂
たんぽぽ1組	山根　舞夏
たんぽぽ2組	佐々木　誠
たんぽぽ3組	中尾　飛鳥
専科・推進員	飯塚　孝
専科（音楽）	藤江　亜希子
専科	今岡　弓子
専科・不登校対策コーディネーター	川上　夏美
少人数指導	今岡　雪江
通級指導	佐藤　悦子
通級指導	前島　義則
養護教諭	植　英里
養護助教諭	堀江　里香
主任	神田　幸一郎
学校校務員	坂本　菜美
学校司書	吉田　真
非常勤講師	錦織　早由利
非常勤講師	岡﨑　由美子
非常勤講師	作野　晴美
非常勤講師	竹田　啓子
非常勤講師	北村　泰子
非常勤講師	吾郷　絵里
非常勤講師	有馬　絵美
英語指導員	池田　亜紀
特別支援教育補助者	江角　雅子
特別支援教育補助者	原　純子
特別支援教育補助者	下井　直美
特別支援教育補助者	栂　章子
特別支援教育補助者	青木　典子
特別支援介助者	井戸　菜実
不登校相談員	山田　真由美
通級ヘルパー	後藤　理子
緊急校務支援員	中村　伊智美
スクールサポートスタッフ	高野　美穂
スクールカウンセラー	伊藤　百合子
育児休業中	武田　楓